

日時 2026年6月21日(日) 12:30～13:30

会場 高知県立県民文化ホール グリーンホール
〒780-0870 高知市本町4丁目3-30

内科と眼科の視点でとらえる 甲状腺眼症

甲状腺眼症は甲状腺機能異常に伴って発症する自己免疫疾患であり、眼窩組織の炎症や線維化により多様な眼所見が惹起される結果、醜形や視機能障害を来し、QOL・QOVが著しく低下する。

本セミナーでは、内科的観点から甲状腺眼症の病態、甲状腺疾患との共通点と違いについて、眼科的観点からテプロツムマブの臨床データとその治療効果の意義について解説する。

座長

くろしお眼科・形成クリニック 院長

三村 真士 先生

演題 1

12:30～13:00

演者①

甲状腺眼症の病態から考えるテプロツムマブ治療
ー内分泌医の視点からー

田口 崇文 先生 高知大学医学部
内分泌代謝・腎臓内科 講師

演題 2

13:00～13:30

演者②

甲状腺眼症治療のパラダイムシフト
～テッペーザがもたらす福音～

渡辺 彰英 先生 京都府立医科大学 眼科学教室 講師